



潰瘍性大腸炎



～決してまれではない慢性下痢症のひとつ～

下痢は「軟らかい～水のような便で、便回数が増えた状態」ですが、個人の食習慣によっても大きく変わります。食中毒などの急性下痢症は通常1週間、長くても4週間で良くなることから、慢性下痢症は4週以上持続または反復する下痢と定義されています。慢性下痢症の原因は、薬剤性、食物起因性、全身疾患性、感染性、器質性（大腸癌、潰瘍性大腸炎など）、過敏性腸症候群ほか多岐にわたっています。このうち、今回は安倍晋三元内閣総理大臣が患っていたことでも知られる潰瘍性大腸炎について説明します。

潰瘍性大腸炎は主として大腸粘膜に炎症をきたし、特定疾患に指定されています。欧米に多い

女の都病院

水田 陽平 先生



疾患ですが、本邦でも患者数は年々増加し、既に20万人を超えています。好発年齢は10歳代後半～20歳代ですが、小児や高齢者にもみられます。遺伝的因子、環境因子など様々な病因が推測されていますが、いまだ不明な点が多く、坂口志文先生が発見し、ノーベル生理学・医学賞の受賞に繋がった「制御性T細胞」の関与も考えられています。症状としては下痢や粘血便が多く、軽症の場合は、少量の血便のみで痔核として見逃されることがあり注意を要します。診断には症状、便細菌培養、大腸内視鏡検査が重要で、病状により薬物療法や手術が選択されます。決してまれではない腸疾患ですので、慢性下痢症が気になる方は医療機関を受診しましょう。



図書館・健康センター複合施設

ホンテラッセ長与
通信 Vol.10

ホンテラッセ 長与

honterrasse nagayo



長与町ホームページ

整備の詳細は上記二次元コードからご覧ください

問 政策企画課新図書館等建設係 ☎095-801-5661

ホンテラッセ長与の環境配慮②

建設中の新施設『ホンテラッセ長与』は、環境面で工夫、配慮された建物になることが特徴です。今回は、ホンテラッセ長与の特徴のひとつである「エネルギー効率に配慮した設計」についてミクンが疑問に答えます。

Q ホンテラッセ長与はエネルギーの消費が少ない建物になるらしいけど、どんな工夫をしているの？

A LEDや高効率空調などの消費エネルギーの少ない設備を導入しているんだよ。

また、複層ガラスの採用、壁の断熱、日射を考慮した部屋の配置、シンプルな形状にして表面積を減らすなどの工夫がされていて、暑い時は熱が入り込まないように、寒い時は熱が逃げないように熱の出入りを減らしているから、エネルギーが無駄にならないことに加えて、快適な環境を作り出すことができるんだ。地球環境にも利用者の皆さんにも優しい施設ってことだね！

